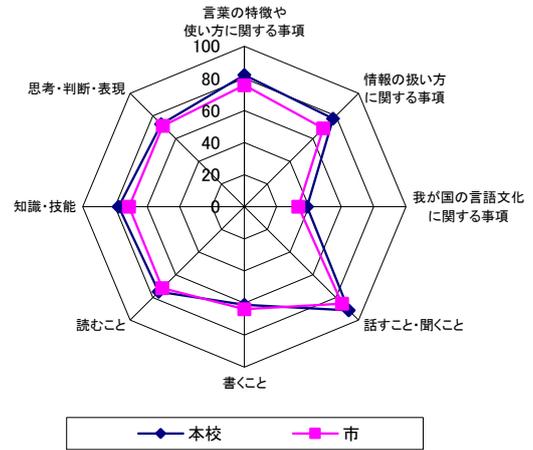


宇都宮市立峰小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使いに関する事項	82.1	75.8	77.5
	情報の扱い方に関する事項	77.8	69.1	67.0
	我が国の言語文化に関する事項	38.9	33.5	37.2
	話すこと・聞くこと	91.4	85.5	86.5
	書くこと	61.1	63.9	65.8
観点別	読むこと	75.0	71.6	69.5
	知識・技能	77.8	71.3	72.9
	思考・判断・表現	72.7	71.3	71.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

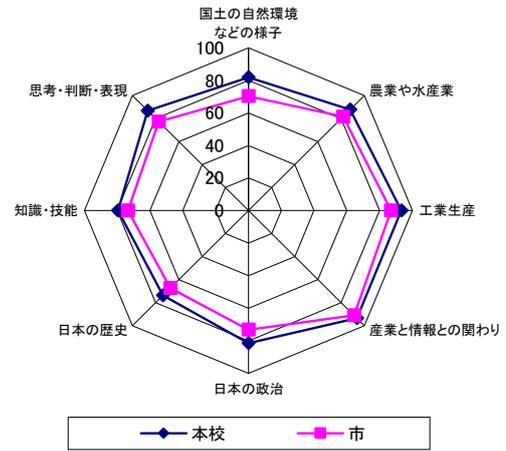
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	本校の平均正答率は82.1%で、市の平均を6.3ポイント上回っている。 ○漢字の読み書きについては正答率が高い結果となっている。 ●文と文の接続関係を問う設問では、正答率が46.3%と低く、全国の平均を1.0ポイント下回っている。	・漢字の読み書きについては、学校での学習に加え、漢字ドリルや小テストを活用しながら、引き続き、繰り返し学習の充実を図る。 ・敬語や接続語などの文法学習については、授業の中で積極的に取り上げる機会を設けるなど、継続的に指導していく。
情報の扱い方に関する事項	本校の平均正答率は77.8%で、市の平均を8.7ポイント上回っている。 ○原因と結果など情報と情報の関係について理解しているかを問われた設問では、市の平均を8.7ポイント、全国の平均を10.8ポイント上回った。	・文章を読み、適切に情報を整理して理解する練習を普段の授業でも取り入れ、引き続き指導していく。 ・いくつかの情報の因果関係を適切に理解した上で、目的にあった文章を書く練習を授業や課題等を通して行うなど継続して指導していく。
我が国の言語文化に関する事項	本校の平均正答率は38.9%で、市の平均を5.4ポイント上回っている。 ●和語・漢語・外来語の組み合わせになっているものを問われた設問では、市の平均を5.4ポイント上回っているものの、正答率が38.9%と低い。	・語句の由来について適宜取り上げ、理解を深めていく。 ・和語・漢語・外来語についての理解を深めるために授業で取り上げていく。
話すこと・聞くこと	本校の平均正答率は91.4%で、市の平均を5.9ポイント上回っている。 ○インタビューする際に、自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える設問では、市の平均を9.8ポイント上回っている。	・1分間スピーチや授業で話す活動を行う際に、目的に沿った内容や相手に伝わりやすい話し方を意識する指導を行う。 ・インタビューをする際には、話の内容を正確に聞き取る練習をするとともに、自分が聞こうとする意図に応じた質問ができるように、質問の内容を工夫する指導をしていく。
書くこと	本校の平均正答率は61.1%で、市の平均を2.8ポイント下回っている。 ○目的に応じて、文章を簡単に書く設問では、市の平均を2.4ポイント上回っている。 ●目的や意図に応じて、伝えたいことを明確にして文章を書く問題は、市の平均を10.6ポイント下回っている。	・自分の考えが読み手に正しく伝わるよう、文章の構成や書き方を指導し、基本的な書く力の定着を図るようにする。 ・テーマや条件を決めて意見文を書く機会を設けることで、情報を整理し、筋道を立てて書く力や、目的に応じた伝わりやすい表現を選択できる力を養えるよう指導していく。
読むこと	本校の平均正答率は91.4%で、市の平均を5.9ポイント上回っている。 ○物語文の内容を読み取る問題では、全てにおいて正答率が80%以上と高い。 ○説明文で文章全体の構成を捉える問題では、市の平均を4.6ポイント上回った。 ●説明文の内容を捉える問題では、目的に応じて文章の情報を整理する問題では、平均正答率が61.1%で市の平均を0.6ポイント下回った。	・学習活動や読書、NIEなどの中で、様々な表現方法から登場人物の心情を捉えたり、文章から大切なことを抜き出してまとめたりする機会を多く設ける。 ・語彙力を高め、知識を増やすことで書かれた内容を理解すると共に、文脈から意味を推測できるように指導していく。 ・説明文において、文章を要約する活動や文の構成、筆者が伝えたいことに注目しながら文章を読む指導を行うことで、全体の要旨を把握する「読む力」の向上を図る。

宇都宮市立峰小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	81.9	70.3	66.4
	農業や水産業	87.7	81.6	75.3
	工業生産	93.2	87.0	77.7
	産業と情報との関わり	93.5	91.0	81.3
	日本の政治	81.5	73.2	75.3
	日本の歴史	73.6	67.4	68.5
観点別	知識・技能	79.5	73.5	72.5
	思考・判断・表現	86.8	77.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

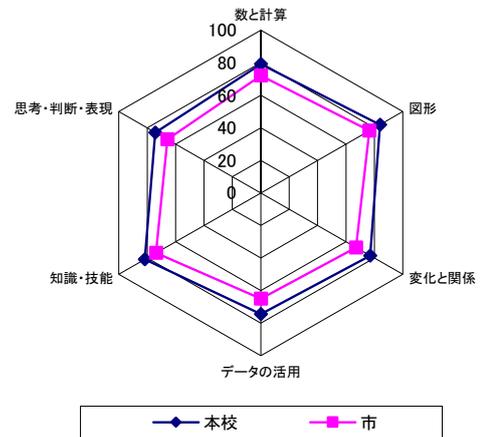
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<p>本校の平均正答率は81.9%で、市の平均を11.6ポイント上回っている。</p> <p>○日本周辺の海洋を答える問題では、平均正答率が90.7%で、市の平均を6.0ポイント上回っている。</p> <p>○近年日本で起きた自然災害の発生場所を問う問題の平均正答率は81.5%で市の平均を21.2ポイント上回っている。</p> <p>●季節風が吹く方向と特徴を選択する問題の平均正答率は市の平均を11.9ポイント上回っているが、正答率は70.4%と低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日本の周りの国々の位置や海洋について、日頃から地図帳で確認したり調べたりする活動を取り入れていく。 資料を活用する力を育てるため、今後も教科書の表やグラフから読み取れることを考えさせる。 新出の地名や語句については、学習プリントやAIDリルなどを用いて、繰り返し学習することで、定着を図る。
農業や水産業	<p>本校の平均正答率は87.7%で、市の平均を6.1ポイント上回っている。</p> <p>○米の品種改良についての理解をもとに資料を読み取る問題では、平均正答率は79.6%で、市の平均を13.3ポイント上回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 第一次産業で働く人々の工夫や努力を、デジタル教材や資料集を活用して把握し、自分の生活にどう関わっているかが理解できるよう指導していく。 農業や水産業の時事的なニュースなどを話題に取り上げ、身近なものとして意識させていく。
工業生産	<p>本校の平均正答率は93.2%で、市の平均を6.2ポイント上回っている。</p> <p>○安全性の高い自動車づくりについて資料をもとに考える問題の平均正答率は100%であり、市の平均を5.0ポイント上回っている。</p> <p>○日本の貿易の変化について資料をもとに表現する問題の正答率は88.9%であり、市の平均を11.5ポイント上回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 複数の資料から情報を関連付けて読み取り、工業生産の特色を多角的に捉える学習を継続する。 工業と国民生活や貿易との関わりについて、最新のデータや図表を活用した指導をする。
産業と情報との関わり	<p>本校の平均正答率は93.5%で、市の平均を2.5ポイント上回っている。</p> <p>○情報を生かした産業について考える正答率は100%であり、市の平均を6.9ポイント上回っている。</p> <p>●情報の発信と受信の注意点について考える問題の平均正答率は87.0%であり、市の平均を1.9ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害の背景や環境保全の取り組みについて、地域の実態と関連付けた指導を継続する。 情報の利便性の理解に留まらず、具体的な事例を用いた学習を通して、信憑性の確認や著作権、プライバシー保護などの情報モラル・リテラシーに関する指導を強化し、活用の注意点を正しく判断できる力を養う。
日本の政治	<p>本校の平均正答率は81.5%で、市の平均を8.2ポイント上回っている。</p> <p>○租税の役割を理解し判断する問題では、平均正答率が85.2%であり、市の正答率を18.2ポイント上回っている。</p> <p>●日本国憲法の原則である基本的人権の尊重を問う問題の平均正答率は、68.5%で市の正答率を0.3下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、税金がどのように使われるのか具体例を挙げながら自分の生活と結び付け理解できるようにする。 日本国憲法や三権分立などの仕組みと社会科学用語を関連させながら、用語の意味を正しく理解し活用できるようにする。
日本の歴史	<p>本校の平均正答率は73.6%で、市の平均を6.2ポイント上回っている。</p> <p>○「江戸時代の禁教と鎖国について、適切な資料を判断する」の正答率は81.5%であり、市の平均を15.3ポイント上回っている。</p> <p>●「室町時代の能について理解している」の正答率は57.4%であり、市の平均を4.7ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本の学力が定着するよう、各時間の振り返りを計画的に行うことで知識の構造化を図る。 各時代の文化について、その時代の様子や繋がり等が把握できるよう、指導を重ねていく。

宇都宮市立峰小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	79.1	72.1	74.6
	図形	84.0	76.5	76.1
	変化と関係	77.0	67.1	59.7
	データの活用	74.4	65.0	64.5
観点別	知識・技能	81.7	73.8	74.7
	思考・判断・表現	74.3	65.8	61.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

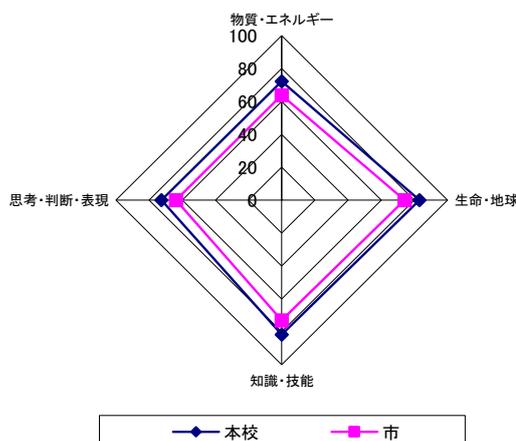
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>本校の平均正答率は79.1%で、市の平均を7.0ポイント上回っている。</p> <p>○本領域のすべての設問において、市の平均を上回っており、3つの設問においては10ポイント以上高い。</p> <p>●分数において比較量が基準量の何倍になるかを求める式を選択する文章問題では、市の平均を上回っているものの、平均正答率が55.6%と他の設問と比べて低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 整数、小数、分数における四則計算の確実な習熟を図るために、AIDリルや選択式のプリント学習等、個に応じた練習に繰り返し取り組ませる。自己の学習を調整する力を育む。 文章問題の解決に当たっては、場面における数量関係を図や数直線に表したり、式に表したりすることを通して、課題を確実に把握できるようにする。
図形	<p>本校の平均正答率は84.0%で、市の平均を7.5ポイント上回っている。</p> <p>○複雑な立体の体積や平行四辺形の面積を求める問題は、市の平均を14.4ポイント上回っている。</p> <p>●線対称な図形の対応する点についての理解を問う問題では、市の平均を上回っているものの61.1%と本領域において低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 線対称な図形については、対象の軸と対応する頂点との関係について、測定や作図を通して特徴や性質を理解させ、活用力を深めさせる。 作業的活動を通して、三角形の角の和や外角の大きさの関係についての習熟を図る。
変化と関係	<p>本校の平均正答率は77.0%で、市の平均を9.9ポイント上回っている。</p> <p>○速さと時間から、道のりを求める問題の正答率は96.3%で本領域で最も高く、市の平均を9.0ポイント上回っている。また、基準量と割合から、比較量を求める問題の正答率は74.1%で市の平均より15.3ポイント上回っている。</p> <p>●単位が異なるセットを1つずつ買った時の1冊あたりの値段を求める問題では、市の平均を上回っているものの本領域の他の問題と比べ、正答率が59.3%と低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 割合の問題については、基準量、比較量、割合について数直線に表す活動を通して3項目の関係を確実に捉えられるようにするとともに、典型的な文章問題の解決を通して数学的な見方・考え方の醸成を図る。 単位量あたりの大きさの問題については、問題場面を図や数直線に表して捉え、その図や数直線と式を関連付けて理解し解決できるようにする。
データの活用	<p>本校の平均正答率は74.4%で、市の平均を9.5ポイント上回っている。</p> <p>○本領域のすべての問題において市の平均を上回っていて、度数分布表を完成させる問題では、正答率が96.3%で市の平均を10.6ポイント上回っている。</p> <p>●ヒストグラムの特徴をもとに、説明をする問題では、市の平均を7.1ポイント上回っているものの、本領域の他の問題と比べ42.6%と正答率が低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> データをもとにした考察の仕方では、ドットプロットや柱状グラフ等の示す内容や特徴について改めて理解を促し、平均値・中央値・最頻値といった代表値との関係について考え、明確な根拠をもとに説明できるようにする。□

宇都宮市立峰小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	72.2	63.8	61.6
	生命・地球	83.1	74.1	73.3
観点別	知識・技能	81.7	73.0	71.3
	思考・判断・表現	72.5	63.8	62.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>本校の平均正答率は72.2%で、市の平均を8.4ポイント上回っている。</p> <p>○実験の方法と結果からふりこの条件を推測する問題の平均正答率は72.2%で市の平均を17.2ポイント上回っている。</p> <p>○クリップの数からコイルの巻き数と乾電池のつなぎ方を推測する問題では、平均正答率は68.5%で市の平均を13.9ポイント上回っている。</p> <p>●水に物を溶かした時の水溶液の重さについての問題の平均正答率は72.2%で、市の平均を3.4ポイント下回った。また、蒸発させたときに何も残らなかった水溶液には、気体が溶けていることの問題を問う問題では、市の平均を4.1ポイント上回ったもの、正答率は35.2%であった。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>○ICTを活用し、実験で得られたデータを入力グラフで正確に表す活動を行ったことで、実験結果の比較が短時間で簡単にできた。今後もICTを有効に活用していく。</p> <p>・実験の目的に応じて一人一人が実験器具などを正しく安全に使いながら調べられるよう環境を整えたり、実験の過程や結果を適切に記録できるようノート等の指導を行ったりして知識の定着をさらに図っていく。</p> <p>・実験結果を多面的多角的に見取る力や、より妥当な考えを作り出そうとする力を育てるため、話し合う時間を十分にとることに努める。</p>
生命・地球	<p>本校の平均正答率は83.1%で、市の平均を9.0ポイント上回っている。</p> <p>○動物のからだのつくりとはたらきにおいて仮説を確かめる実験を構想できるかを問う問題の平均正答率は77.8%で市の平均を13.1ポイント上回った。</p> <p>○植物のつくりとはたらきにおいて、葉からでんぷんがなくなるのはいつかを考える問題の平均正答率は79.6%で市の平均を15.8ポイント上回っている。</p> <p>●流れる水のはたらきについて、予想が正しかった場合に得られる実験の結果を推測する問題の平均正答率は59.3%で市の平均を2.6ポイント下回った。</p>	<p>・予想から得られる結果を推論できるように、言葉の意味と現象をつなげられるよう指導していく。</p> <p>・実際に手に取ったり目で見たりすることのできない事象や現象について、具体的な資料を工夫したり現象のモデル化を児童自身に考えさせたりするなど、より理解が深まる働きかけを工夫・研究していく。</p> <p>・学習したことを生活と結び付けられるよう、理科の見方から児童の興味関心を高める指導や助言の工夫に努める。</p>